○記入用紙

JWUシーズ

※＝入力必須項目

研究者名※	木村麻衣子	学位※	博士(図書館・情報学)
所属※	文学部 日本文学科	職名※	准教授
連絡先	kimuram@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/mayizi		
研究分野※	図書館情報学・人文社会情報学		
研究キーワード※	情報組織化		
共同研究・競争的資金等の研究課題	・漢籍利用者の研究行動の解明と利用者タスクに基づく目録作成・評価枠組みの開発(科学研究費・若手・研究代表者, 2018年～2022年) ・江戸幕府紅葉山文庫の再構と発信―宮内庁書陵部収蔵漢籍のデジタル化に基づく古典学―(科学研究費・基盤A・研究分担者, 2020年～2024年)		
社会貢献・産学官連携活動等	・日本図書館協会目録委員会　委員(2019年5月～現在) ・ISO/TC46(情報とドキュメンテーション)/SC4(技術的相互運用性)国内委員会　委員(2016年～現在)		
受賞歴	・2019年6月　優秀発表奨励賞 日本図書館情報学会 ・2013年　学会賞 三田図書館・情報学会		

研究領域	図書館情報学	(SDGs)
研究テーマ※	漢籍利用者の研究行動の解明と利用者タスクに基づく目録作成・評価枠組みの開発	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 近年, 図書館目録において, 利用者が資料を検索し, 入手するまでの一連の行動を「利用者タスク」としてモデル化し, 行動の各段階において利用者の要求を満たすための目録データ要素を決定するという考え方が浸透しつつある。しかし, 現在提案されているモデルは英語圏の図書館を中心に広まったもので, 漢字文化圏の利用者や漢字文化圏特有の資料に対して, 同様のモデルを適用できるかどうかが検討された例はない。 本研究の目的は, 1)特定の資料群, 具体的には漢籍の研究者を対象としたインタビュー調査と質的分析により, 漢籍利用者の研究行動を明らかにすること, 2)漢籍利用者の研究行動から漢籍利用者の利用者タスクを明らかにすることを通じて, 特定の資料群の利用者タスク解明手法を開発すること, 3)図書館のコンピュータ目録や, デジタルアーカイブにおける漢籍のメタデータに必要なデータ要素を, 利用者タスクと対応づけて明らかにし, 同時に利用者タスクを用いて, 既存のメタデータを評価する枠組みを開発することである。 【応用例、研究の展望】 ・本研究で開発する利用者タスク解明手法を, ほかの資料群にも適用することができる。 ・漢籍メタデータの作成・評価枠組みによって, 図書館等は, 漢籍利用者のニーズに応じて, 書誌事項に優先順位をつけて目録に記録することができるようになる。例えば資料を「発見」するためには, 書名と著者名が必要だといったことがわかるので, 漢籍目録にコストをかけられない図書館においては, まずはすべての資料に対し書名と著者名を記録して目録を公開するといったことが可能になる。 ・漢字文化圏特有の資料について, 利用者タスクという根拠に基づいた書誌事項の決定が行われることによって, 別の言語圏の目録データ作成機関や利用者に対し, こうした資料の書誌データや資料そのものの性質への理解を促すことができる。 【研究方法の特色】 ・漢籍利用者の研究行動が, インタビューと質的分析によって明らかになる。 ・これまで方法が確立されていなかった, 利用者タスクを解明する手法を開発する。 ・他領域で蓄積されてきた質的研究の手法と知見を利用者タスクの解明に適用する。 ・図書館で扱う漢籍の目録に記録することが望ましい書誌事項を, 漢籍利用者タスクと対応付ける。	
本研究関連特許・論文等	・木村麻衣子. 漢籍利用者へのインタビュー調査に基づく利用者タスクおよびエレメントの抽出. 第68回日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2020, p. 37-40. ・木村麻衣子. 漢籍利用者はどのように漢籍を使うのか. 2019年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集. 2019, p. 21-24.	